



やきもの分類の話 (前編)

口縁部が染付磁器、胴部が鉄釉陶器の壺(小溝上窯跡)の製作技術の産物であることが分かる。



英語で「磁器」は、一般的に「Porcelain」と訳されます。ところが、欧米の方々にとっての Porcelain と日本人がイメージするそれとは、必ずしも種類が一致しないのはご存じでしょうか？やきもの分類など、万国共通だと思われている方も多いのですが、実は、国や地域、あるいは時代によっても異なります。単純なようで、実際には小難しく、時には理解に窮してしまうこともあるやきもの分類。この分類の謎について、次号までの2回に渡って、ちょっとだけ深掘りしてみようことにします。

現代の日本では、やきものは「土器」「陶器」「^{せっき}「磁器」の4つに区分されます。「磁器」って何って方も多いかと思いますが、胎土が有色で、文字どおり高温焼成で焼き締まり、石のように硬いやきものを言います。とは言え、それでも全然イメージが湧かないって方がほとんどではないでしょうか。でも、それも当然です。理論上は4分割でも、実際には日本人の頭の中では「土器」「陶器」「磁器」の3区分で、通常は「磁器」に具体的なイメージはないからです。その理由は簡単。もともと東洋にはない区分で、たとえば磁器質の唐津焼も「陶器」に区分するように、「磁器」として製作された製品は皆無だからです。

そもそも江戸時代までの日本では、「土器」と「陶器」の2分割で、「磁器」も「陶器」の一種でした。そのため、特に「磁器」のことを指す場合には「南京焼」や「南京白手の陶器」など、中国風のやきものという表現が用いられ、通常は「染付」や「青磁」「白磁」など、個々の種別で呼ぶのが一般的でした。

ところが明治時代になると、政府は殖産興行の旗印の下に工業の近代化を推し進め、西洋から多くの技術を享受しました。窯業技術もご多分に漏れず、呉須に

代わるコバルトの使用や石炭窯の試作などに尽力した、ドイツ人化学者ワグネルをはじめ、欧州から多くの技術を学びました。こうした過程で、「Earthenware (土器)」「Stoneware (磁器)」「Porcelain (磁器)」という分類の概念ももたらされ、従来の「土器」「陶器」の2分割との合体が図られたのです。

欧州の分類は、単純に胎土の質で区分することが大きな特徴です。そのため「Porcelain」とは、原則的に磁器質の胎土を必須とする、14世紀頃に中国・景德鎮で完成した元青花(染付)の系譜を引くやきものを指します。たとえば、日本では磁器の仲間とする青磁は「Stoneware」、つまり「磁器」として区分されるのです。よって、「磁器」を「Porcelain」と英訳することは間違いではないのですが、必ずしも相手も同じイメージで捉えているとは限らないのです。(村上)



江戸期の区分では、3種ともに陶器
現代日本の区分では、唐津焼は陶器で、青磁と白磁は磁器。欧州の区分では、唐津焼と青磁はStonewareで、白磁はPorcelain。

皿 季刊 山

No.146

夏
2025

有田内山伝統的建造物群保存地区

かわら版

有田内山伝統的建造物群保存地区は、平成3年度に国の「重要伝統的建造物群保存地区」に選定されました。以後、国や県の補助も受け、町並みの景観を維持するために、延べ132件の指定物件の修理助成を行ってきました（助成率は80%、限度額600万円）。令和6年度には、1件の修理を実施しました。

令和6年度 保存修理事業報告

赤絵町・北村千寿子家（外壁修理）

赤絵町の中ほどに位置する北村家は、昭和前期に建てられた妻入り入母屋造の二階建て和風建築で、屋根は棧瓦葺き、外壁には黒漆喰が使われています。以前は陶磁器商を営まれていたため、一階正面は店構えとなっています。

しかし、すでに築後100年近くが経過し老朽化が目立つようになったため、今回修理を行いました。まず、西面（左側）外壁は、鉄板の傷みを再塗装で対処しました。庇も劣化し、特に東面は瓦もずれ落ちていたため、葺き替えも含めて修理を行いました。また、ガラスが破損していた正面西側のショーウィンドウは、後の造作物であることが判明したため撤去し、元の状態に復原しました。

修理前



修理後



有田内山伝統的建造物群保存地区防災計画を策定しました

内山地区は、文政11年（1828）の大火で地区の大半が焼失したように、家屋が密集し、ひとたび災害に見舞われると、大惨事となる危険性をほらむ場所です。そのため、住民の生命・身体および財産を守り、町並みの歴史的景観を保存・活用しつつ、適切に将来に継承することが喫緊の課題となっていました。それを解決するため、令和5～6年度事業で、火災や水害ほか各種災害への対処を盛り込んだ、防災計画を策定しました。

今後は、策定した計画に基づいて、緊急度や費用対効果を勘案しつつ優先順位を設定し、順次実現に向けて取り組むことにしています。



防災計画策定委員会の様子

伝建地区での現状変更（新築、外観の変更、解体等）には申請が必要です。規制の内容や地区の範囲、修理事業等に伴う助成内容、手順等については、有田町教育委員会文化財課まで、お問い合わせください。

令和8年度の修理事業・修景事業を希望される方は、令和7年6月末までに計画書の提出が必要です。

●お問い合わせ 文化財課 0955-43-2899

ミニ企画展開催!

(旧田代家西洋館・有田陶磁美術館)

令和7年度も、有田陶器市期間中に旧田代家西洋館と有田陶磁美術館にてミニ企画展を開催しました。その様子についてご紹介します。

● 旧田代家西洋館ミニ企画展 歴史の川ざらい ～ベンジャラを探そう! 成果展

4月29日～5月5日の有田陶器市期間中に、昨年8月1日に夏休み子ども向け企画として実施した、「第11回 歴史の川ざらい～ベンジャラを探そう!」の成果展を開催しました。参加した13人の子ども達が川底から拾った古い陶片を紹介する展示で、各人の採集品から一つずつ選び、学芸員が元の形や文様を伝世品等と比較しながら解説を加えたパネルも合わせて展示しました。今回の陶片には、江戸時代のはじめ頃に作られた初期伊万里様式の皿や、内面に蓮の花状に文様を配置した芙蓉手と呼ばれる海外輸出用の皿をはじめ、上流の古窯跡などから流れ込んださまざまなものが見られました。この企画を通じて、子ども達に郷土有田ならではの景観を、しっかりと記憶に刻んでもらえたのではないかと思います。

昨年から、より多くの方々に子ども達の成果をご覧いただけるように、あえて人の多く集まる陶器市期間中に展示を実施しています。川で古い陶片が拾えることの驚きや子ども達の鑑識眼の確かさなど、見学者の方々には大変ご好評をいただきました。

なお、拾った陶片は文化財なので持ち帰れません。子ども達の名前を記録し、法的手続きを行って町文化財課で大切に保管しています。

● 有田陶磁美術館ミニ企画展 古陶磁名品展

今年も昨年同様、有田陶器市期間中に、有田陶磁美術館2階にて「古陶磁名品展」を実施しました。有田陶磁美術館は、6年前に「明治の館で同時代を歩んできたやきものを愛でる」をコンセプトに常設展示を一新し、同時期に建造された近接する旧田代家西洋館と連携を図るため、明治期以降の製品を主に展示しています。そのため、これまでは常設展示していた、江戸時代の古陶磁の名品は一旦収蔵庫でお休みすることとなりました。

しかし、有田陶磁美術館の古陶磁の名品を収蔵したままにしておくのはもったいない、また、陶器市の会場内で気軽に古陶磁の名品を楽しめるようにしたい、という思いで、昨年よりこのミニ企画展を開催しています。

展示は2階の一区画、わずか展示ケース4つ分のスペースではありますが、それぞれのケースに「初期伊万里様式」「古九谷様式」「柿右衛門様式」「鍋島様式」の製品が3～7点ほど並び、来館者の目を楽しませました。

また来年、古陶磁の名品たちと再会する日を心待ちにしたいと思います。

展示している解説パネル



ミニ企画展会場全景
(美術館2階)



展示ケース
鍋島様式について紹介した



曲川小学校での戦争学習

4月21日に曲川小学校を訪問し、6年生を対象に戦争についての講話を行いました。これは、今年が戦後80年という節目の年であり、5月末に長崎に修学旅行に行くことから、念入りに戦争に関する事前学習の機会を設けたい、という学校からの要望に沿ったものです。

当日は、子ども達が戦争について身近に感じることができるよう、当時の6年生が体験を綴った作文や、戦地からわが子に向けて送った出征兵士の手紙、戦時中の有田の写真、出征旗や千人針など、厳選した館蔵資料を持参しました。

講話では「戦争」についての知識は持ちつつも、どこか別世界の出来事のように感じていた子ども達も、実際に有田で起こった出来事や、当時の子ども達が体験した戦争の様子を目の当たりにし、真剣な面持ちで聞き入り、多くの質問が飛び交うことになりました。今後戦争について多くを学び、平和の尊さをかみ締めながら、希望に満ちた将来の有田や日本を作り上げていって欲しいと思います。

当館をはじめ文化財課では、今回のように町内の歴史・民俗に関するさまざまな講話や研修などに随時対応しています。ご希望の際は、まずは当館（43-2678）までお問合せください。

博物館実習生募集

有田町歴史民俗資料館及び有田陶磁美術館では、令和7年度の博物館実習の受け入れを、下記のとおり実施しています。

実習期間	令和7年8月4日（月）～8月8日（金）
内容	出土資料整理、館蔵資料整理、展示計画（案）作成、子ども向け講座の運営等
応募資格	大学に在学中で、「博物館実習」以外の単位を修得（見込み）した者で、将来博物館や文化財に関連する職への就職を希望するか、これらに関心がある者。
定員	3名
受付期間	6月30日（月）まで ※但し定員に達し次第終了
申込方法	まずはお電話（43-2678）いただき、定員に空きがあるかご確認ください。 その後、博物館実習申込書を提出下さい。

詳しい申込み方法は[こちら](http://www.town.arita.lg.jp/rekishi/)をご覧ください。

<http://www.town.arita.lg.jp/rekishi/>

有田町文化財課・有田町歴史民俗資料館の 周辺看板を設置しました

昨年より、当館の駐車場前に設置していた誘導看板が破損し、ご来館の皆さまにはご迷惑をおかけしておりましたが、今年の3月に修復いたしました。併せて、当館の「来館者駐車場」の看板と、町道沿いに「有田町出土文化財管理センター（文化財課）」への誘導看板も新設いたしました。

新しい看板には、各施設の方向を矢印にて示しており、新たに、各施設までの距離も記載しています。

当館周辺は少々分かりにくい立地となっていますが、来訪の際の一助になれば幸いです。

修復した資料館誘導看板
（来館者駐車場付近）



新設した来館者駐車場看板



町道沿いに新設した出土文化財管理センター誘導看板



季刊『皿山』

通巻146号（令和7年6月18日）
編集・発行 有田町歴史民俗資料館

〒844-0001 佐賀県西松浦郡有田町泉山一丁目4-1

☎ 0955-43-2678 FAX 0955-43-4185

URI : <https://www.town.arita.lg.jp/rekishi/>